



未来を切り拓く Dream授業

報 告 書

【前期】2021. 8.17 ~ 8.19
【後期】2021.12.27 ~ 12.28



静岡県スポーツ・文化観光部総合教育課

目 次

1	授業概要.....	1
2	授業開催までの流れ.....	2
3	受講者の概要.....	4
4	授業スケジュール（前期）.....	6
5	授業スケジュール（後期）.....	7
6	講師・講義内容一覧（前期）.....	8
7	授業の様子（前期）.....	9
8	講師・講義内容一覧（後期）.....	13
9	授業の様子（後期）.....	14
10	グループディスカッション・発表.....	15
11	受講者の振り返り.....	19
12	前期受講者アンケート調査結果.....	20
13	後期受講者アンケート調査結果.....	22
14	受講者の発表を観覧した保護者の感想.....	24
15	ユースリーダー.....	26
16	同窓会の開催.....	27

1 授業概要

- 1 日程 (前期) 令和3年8月17日(火)から8月19日(木)まで
(後期) 令和3年12月27日(月)から12月28日(火)まで(1泊2日)
- 2 方法 (前期) オンラインによる講義
(後期) 対面による講義、グループディスカッション及び発表
- 3 会場 (前期) 各受講者の自宅等
(後期) 静岡県総合教育センター(掛川市富部456番地)
- 4 受講者 (前期) 県内の中学1・2年生 30名(応募者104名から抽選)
(後期) 県内の中学1・2年生 26名(前期参加者中4名欠席)

5 授業の概要

(1) 各界を代表する講師陣による講義【世界・地域を知る】 (50音順、敬称略)

講師	役職等	備考
池上 重弘	静岡文化芸術大学英語・中国語教育センター長	後期
小野澤 宏時	アザレア・セブンチームディレクター	
加藤 種男	アーツカウンシルしずおかアーツカウンシル長	
加藤 百合子	(株)エムスクエア・ラボ代表取締役	
川勝 平太	静岡県知事	
杉田 精司	東京大学大学院教授	
矢野 弘典	横綱審議委員会委員長	
SPAC 劇団員	(公財)静岡県舞台芸術センター	

※役職は開講当時

(2) A L T・国際交流員との交流【世界に触れる】

世界各国から静岡県に来ているA L Tや国際交流員と交流

(3) 俳優による表現指導等【感性・表現を磨く】

現役の劇団俳優による、デモンストレーションとワークショップ

(4) 同世代の仲間とのディスカッション【感性を磨く】

異なる志を持つ同世代の仲間とのグループディスカッション

(5) 発表【表現を磨く】

グループディスカッションの結果を取りまとめ、発表

2 授業開催までの流れ

1 受講者募集

- ・ 6月14日、県ホームページ上に募集要項、申込書等を掲載し、受講者の募集を広報した。申込みに当たっては、所定の申込書とともに、将来の夢等に関する作文の提出を求めた。
- ・ 6月17日、県内全ての中学校に募集リーフレットを送付し、中学1・2年生一人一人へのリーフレットを配布するよう依頼した。
- ・ 6月21日から7月16日までの受付期間内に、定員30名を超える104名の申込みがあった。

2 受講者決定

- ・ 定員を上回る申込みがあったため、抽選により受講者30名を選定した。
- ・ 7月21日、受講者に対し、受講が決定した旨を通知するとともに、抽選に漏れた生徒には、その旨を通知した。

3 事前課題

- ・ 受講者には、受講決定通知の際、8月4日までに事前課題を提出するよう求めた。
- ・ 事前課題の内容は、「もしあなたが、自由に学校をつくることができるとしたら、どのような学校をつくってみたいか」についての作文であり、授業のグループディスカッションのテーマである「理想の学校をつくろう」につながる内容を題材として設定した。

4 グループ編成

- ・ 授業中に多様な意見や考え方に接することができるように、受講者から提出のあった事前課題の内容や受講者の居住地域が重ならないように配慮し、男女それぞれ3名ずつ計6名のグループで5班を編成した。

5 開催方法の変更

- ・ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、開催方法を変更し、前期と後期に分けて実施することとした。各受講者にオンライン環境について事前確認を行った上で、当初8月17日～20日（3泊4日）の日程で予定していたプログラムのうち、前期は、池上講師以外の講義を当初計画の日時を基本にオンラインで実施

することとし、後期は、池上講師による講義及び他のプログラムについて、感染状況を見ながら、10月以降に対面で実施することにした。受講者には、8月6日にその旨を通知した。

- ・前期終了後、感染状況が落ち着いていたことから、感染防止対策を徹底した上で、後期を12月27日～28日（1泊2日）に開催することとし、10月7日に受講者に通知した。

6 ユースリーダーとしての協力依頼

- ・過去の「未来を切り拓く Dream 授業」及び「日本の次世代リーダー養成塾」の参加者に、授業の運営の補助やグループディスカッションにおける助言を行うユースリーダーとしての参加を呼び掛けた。
- ・当初は、12名から申し出があり、12名にお願いする予定だったが、開催方法の変更により後期のみとなり、最終的に7名にお願いすることとなった。

3 受講者の概要

1 受講者の学年・性別

学年	男性	女性	計
中1	10	9	19
中2	5	6	11
計	15	15	30

2 受講者中学校一覧

学校所在市町	学校名
静岡市 (8)	静岡大学教育学部附属静岡中学校(2)
	静岡県立清水南高等学校中等部
	静岡市立安倍川中学校
	静岡市立清水第六中学校
	静岡雙葉中学校
	静岡聖光学院中学校
	静岡北中学校
浜松市 (7)	静岡大学教育学部附属浜松中学校
	静岡県立浜松西高等学校中等部(2)
	浜松市立東部中学校
	浜松市立浜名中学校
	浜松市立清竜中学校
	聖隷クリストファー中学校
三島市 (2)	三島市立南中学校
	三島市立山田中学校
伊東市	伊東市立南中学校
沼津市	沼津市立金岡中学校
清水町	清水町立清水中学校
裾野市	裾野市立西小学校
富士市	富士市立富士南中学校
焼津市	焼津市立豊田中学校
藤枝市	藤枝明誠中学校
島田市	静岡大学教育学部附属島田中学校
菊川市	菊川市立菊川西中学校
掛川市	掛川市立北中学校
森町	森町立森中学校
袋井市	袋井市立周南中学校
湖西市	湖西市立鷺津中学校

3 在籍学校種別

種類	人数
国立	4
公立	21
私立	5
計	30

4 将来の夢（複数回答）

将来の夢	人数	将来の夢	人数
医師・医療関係	7	食に関する仕事	1
教師	5	女優	1
環境分野の仕事	2	スポーツ選手	1
公務員	2	デザインエンジニア	1
発明家	2	番組プロデューサー	1
音楽関係の仕事	1	プログラマー	1
科学者	1	弁護士	1
建築家	1	薬剤師	1
公認心理師	1	理数系の仕事	1
消防士	1	その他（人の役に立つ仕事等）	4

4 授業スケジュール（前期）

未来を切り拓くDream授業（前期） オンライン講義スケジュール				
		8月17日（火）	8月18日（水）	8月19日（木）
7:00		【参加者数】 30人		
8:00	【研修グループ】 A～E班 5グループ (1グループ6人)			
			接続開始	接続開始
9:00			菊川ジュニアビレッジ活動紹介	講義⑥ 杉田精司講師 【探査機はやぶさ2が宇宙に探る 生命の起源】
		接続開始	講義③ 加藤百合子講師 【セルフプロモーションの必要性】	レポート
10:00		Zoom操作研修	レポート 振り返り	振り返り
		休憩	休憩	講義⑦ 小野澤宏時講師 【スポーツするって どういうこと？】
11:00		【オリエンテーション①】 ・参加上の注意 ・自己紹介	【オリエンテーション②】	レポート 振り返り
12:00		休憩	休憩	事務連絡 解散
		開講式		
13:00		講義① 川勝平太講師 【子供たちへのメッセージ】	接続開始	
		レポート 振り返り 休憩	講義④ 加藤種男講師 【よく歌い、よく踊る】	
14:00			レポート 振り返り	
		講義② 矢野弘典講師 【夢をえがこう】	休憩	
15:00		レポート 振り返り		
		事務連絡 終了	講義⑤ 【SPAC劇団員】	
16:00			SPACによるワークショップ	
17:00			レポート 振り返り 事務連絡 終了	

5 授業スケジュール（後期）

未来を切り拓くDream授業（後期） スケジュール			
総合教育センター			
		12月27日（月）	12月28日（火）
6:30			起床
7:00			朝食
			掃除等
8:00	【参加者数】 26人 【研修グループ】 A～E班 5グループ (1グループ4～6人) 【宿泊グループ】 1～6班 6グループ (1グループ4～5人)		荷物整理
9:00			グループディスカッションⅢ (発表準備)
10:00		受付	
		事務連絡	発表・審査
11:00		オリエンテーション	
12:00			昼食
		会場準備	昼食
13:00		講義 池上重弘講師 【グローバル化時代を生きる】	会場準備
14:00		ALT、国際交流員 との交流	レポート
15:00			<Dream Time①> ・同窓会報告 ・ユースリーダーからのメッセージ
		レポート 振り返り	<Dream Time②> 参加者全員のスピーチ (振り返り、これからの自分)
16:00		グループディスカッションⅠ (GDⅠ)	閉講式 記念撮影 解散
17:00			<テーマ> 理想の学校をつくろう
18:00		夕食	
19:00		グループディスカッションⅡ (GDⅡ)	
20:00		中間発表 (発表に関する注意事項)	
		ホームルーム	
21:00		入浴	
22:00		自由時間	
23:00		就寝	

6 講師・講義内容一覧（前期）

（敬称略、講義順）

1 川勝 平太 / 静岡県知事

講義内容：子供たちへのメッセージ

日 時：8月17日（火）13時～13時45分



2 矢野 弘典 / 横綱審議委員会委員長

講義内容：夢をえがこう

日 時：8月17日（火）14時30分～15時30分



3 加藤 百合子 / 株式会社エムスクエア・ラボ代表取締役

講義内容：セルフプロモーションの必要性

日 時：8月18日（水）9時35分～10時20分



4 加藤 種男 / アーツカウンシルしずおかアーツカウンシル長

講義内容：よく歌い、よく踊る

日 時：8月18日（水）13時30分～14時30分



5 SPAC劇団員 / 公益財団法人静岡県舞台芸術センター

講義内容：静岡から世界へ 舞台俳優の仕事について

日 時：8月18日（水）15時30分～17時



6 杉田 精司 / 東京大学大学院教授

講義内容：探査機はやぶさ2が宇宙に探る生命の起源

日 時：8月19日（木）9時～10時



7 小野澤 宏時 / アザレア・セブンチームディレクター

講義内容：スポーツするってどういうこと？

日 時：8月19日（木）10時30分～11時30分



※役職は開講当時

7 授業の様子（前期）

（講義順）

○川勝平太講師 「子供たちへのメッセージ」



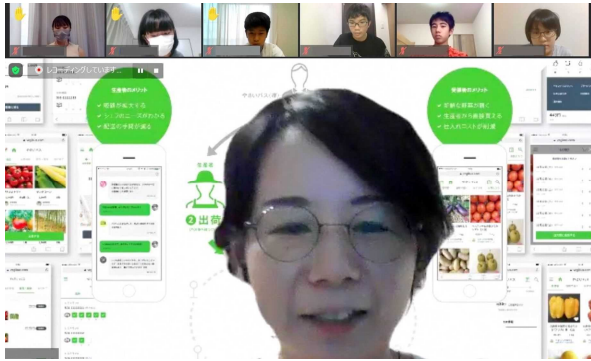
- ・最初の講師は静岡県の川勝知事。多くの受講者が緊張した様子で画面を見つめていた。
- ・オリンピック憲章に触れ、オリンピックがスポーツの祭典だけでなく平和の祭典でもあることなどを解説していただき、平和な社会を作ること、それを維持することの大切さを学ぶことができた。

○矢野弘典講師 「夢をえがこう」



- ・矢野講師の子どものころからの人生の振り返りから、子どものころの体験は一生を左右する力があることを教えていただいた。
- ・「世界は感動に満ちており、新鮮な心で世の中の変化や出来事を見て直接触れてほしい。」「人生は白いキャンパスに自分で絵を描くようなものなので、二度と無い人生を大切にしてほしい。」とメッセージをいただいた。

○加藤百合子講師 「セルフプロモーションの必要性」 (菊川ジュニアビレッジ活動紹介)

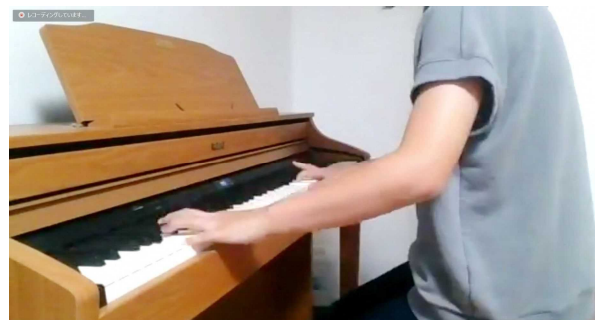


- ・受講者と同年代の子どもたちが企画・運営する「菊川ジュニアビレッジ※」の部員から、コロナ禍における事業内容や活動時に苦労していることなどを説明していただいた。
- ・また、「菊川ジュニアビレッジ」の創設者である加藤講師からは、子どもであっても人間社会に生まれたときから社会人であり、課題を見つけ、仮説を立て、社会に貢献していくこととの大切さについて教えていただいた。

※菊川ジュニアビレッジ

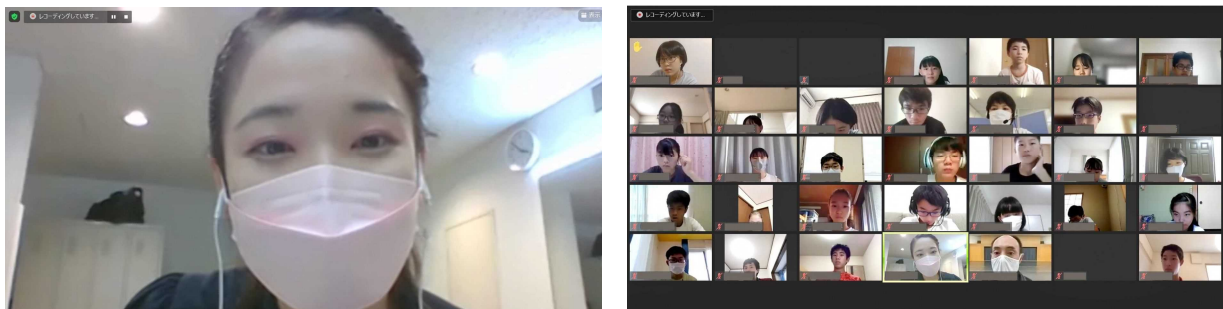
小中学生が農業体験や、自分たちが生産した農産物の加工、流通、販売体験などを実施することで、学校や家庭では体験できない学びの機会を子どもたちに提供し、社会を生きるのに必要な「生き抜く力」を育てている。

○加藤種男講師 「よく歌い、よく踊る」



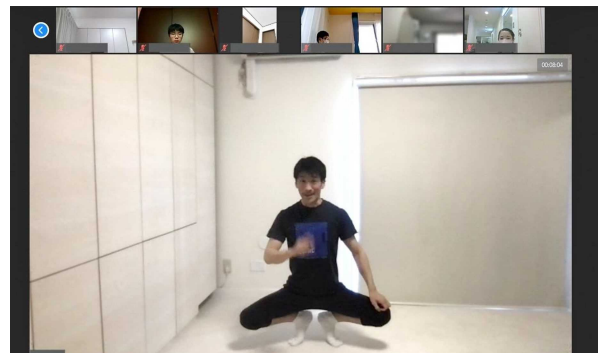
- ・芸術は社会と密接な関係があり、一見芸術とは無縁に見える分野であっても、全ての社会生活は芸術とともにあることを教えていただいた。
- ・また、各グループの代表2名が「表現」の発表を行った。加藤講師から「芸術活動に制限はない」との助言をいただき、発表者は書道、ダンス、歌やピアノなど得意な分野の表現をのびのびと披露した。

OSPAC劇団員 「静岡から世界へ 舞台俳優の仕事について」



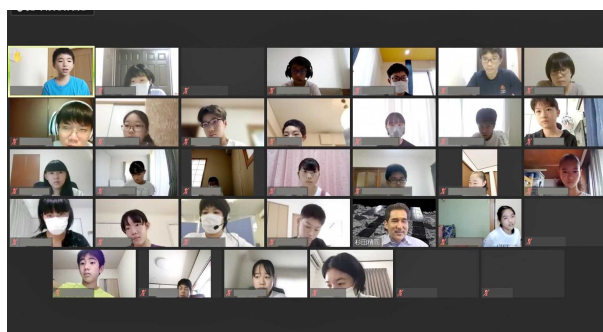
- ・ 県立劇団であるSPAC（公益財団法人静岡県舞台芸術センター）や、演劇そのものについて説明していただいたあと、職業や将来についてお話しいただいた。
- ・ 劇団員が、演劇を志したきっかけや、子どもの頃にどのように考え、実行し、夢を実現してきたかを聞き、自らの夢の実現のために今後何をすべきか考えるきっかけになった。

OSPAC劇団員による表現指導



- ・ 講義に続いて、2グループに分かれ、SPAC劇団員に演劇の基礎的な動作を指導していただいた。
- ・ また、実際の演劇で使用している台本を用いてセリフの読み合いを行い、体や言葉で人の気持ちなど、「見えないもの」を表現する難しさと楽しさを身をもって体験することができた。

○杉田精司講師 「探査機はやぶさ2が宇宙に探る生命の起源」



- ・ 太陽系の惑星のお話から小惑星を探査する理由、はやぶさ2の目的や成果など、世界最先端のお話を分かりやすく解説していただいた。
- ・ また、中学生のときに夏休みの理科の自由研究が少しうまくできたという自信がその後の科学者としての人生を決めたように思うという経験談とともに、「誰もが成功のきっかけを持っており、日々感じることを大切にしてほしい。」とエールをいただいた。

○小野澤宏時講師 「スポーツするってどういうこと？」



- ・ スポーツは、身体を鍛えたり競争したりするだけではなく、考える力や集団で問題を解決する力を育む目的もあるという新しい視点をお話しいただいた。
- ・ また、小野澤講師がコーチを務めるアカデミーのトレーナーにも御協力いただき、家でもできるトレーニングを教えていただいた。各メニューのポイントを解説いただいた上で実際に全員でトレーニングを行い、自分の身体を操る難しさと楽しさを体感することができた。

8 講師・講義内容一覧（後期）

（敬称略）

- 1 池上 重弘 / 静岡文化芸術大学英語・中国語教育センター長
講義内容：グローバル化時代を生きる
日 時：12月28日（火）13時～13時45分
場 所：静岡県総合教育センター 大研修室



※役職は開講当時

9 授業の様子（後期）

（講義順）

○池上重弘講師 「グローバル化時代を生きる」



- ・前期の終了から約4か月が経った後期の最初のプログラムは池上講師による講義。初めにグループ内で自己紹介を行い、お互いの共通点を見つけ合った。その後、グローバル化時代を生きる人材（グローバル人材）には何が求められるのか各グループでディスカッションを行った。
- ・グローバル人材になるためには、英語やその他の言語の習得はもちろん、自国の社会や文化に関する理解、世界の歴史、文学や音楽といった世界共通の教養を身に付けることが大切であることを学ぶことができた。

○ALT・国際交流員との交流



- ・ALT（外国語指導助手）と国際交流員の方が母国と日本の学校の違いについて英語で説明し、ユースリーダーが受講者に向けて日本語通訳を行った。
- ・その後、それぞれのグループで「理想の学校」について、ALTと国際交流員の方々と交えて意見交換を行った。

10 グループディスカッション・発表「理想の学校をつくろう」

1 グループディスカッション

(1) 進め方・時間配分等

「理想の学校をつくろう」をテーマにグループディスカッションを行った。
ディスカッションに入る前に、受講者にワークシートを配布し、

- ・話合いのルール
- ・「理想の学校」でどのような人材を育てたいか
- ・グループで話し合った人材を育てるためにどのような教育内容や設備が必要かなど、あらかじめ受講者に進め方のポイントを説明し、ディスカッションを円滑に進めることができた。

また、時間を持って余す班や発表資料の作成が間に合わない班はなく、時間配分は適切だった。



(2) 受講者の様子

受講者は、主体的にディスカッションに参加し、各班で活発な議論が行われた。

一部では意見があまり出ず話合いが止まってしまう場面もあったが、ユースリーダー（学生ボランティア）の適切な指示や受講者たち自身の力で乗り越えることができ、自分の意見を伝えることの難しさや他者の意見を受け入れることの大切さ等を学んだ。

2 発表

各班 10 分の持ち時間で発表を行った。各班がまとめた理想の学校は以下のとおり。

【A班】「ふじのくに立 夢追 (ドリーム) city 大学」

ふじのくに立 夢追 city 大学

校訓
富士の高嶺へ 夢を追えよ

学校について
・中学から高校は 1 学年 300 人 計 1800 人
・大学生は 1500 人
・夢を追う意欲・能力があれば誰でも入れる。
・興味があることを学べる

人材育成
・世界に静かな魅力と発信でき、社会・地域に貢献できる人を育てる。
・自分の考え行動し、物事を色んな視点から見る事ができる人を育てる。

教育内容
5 教科 (社 国 理 数 英) など
+ 公民・地域英語 (重点)
+ 学びたい言語の選択
学校全体でボランティア活動 (ごみ拾いなど)
宿題は選択制 ← したい人だけ
講師の話をきける ← 夢についても、と考えるため (3.5 月に 1 回)

十夢プロ
週 1 で夢について追究する (全員)
月 1 で報告し高め合う

夢追大学の施設
・校舎 日程を立て、朝・帰りの会を行う。
・考技館 コンピューターやゲームテクノロジーについて、現在のことを学ぶ。(技術社)
・芸術館 自由に絵を描いたり、工作したりする。(美術科・陶芸・家庭科)
・music アーティストが楽器を奏する (音楽)
・一般の授業でなく、自分の学習したいことだけ学習できる (数学・国語・英語)
・クラブ内で城などの学習 (必要に応じて再選される) (家庭科)
・食堂 昼食をとり調理を体験する。(家庭科)
・公民館 人とふれ合い、公民に
・図書館 ついて学ぶ (社会)

設備と地図
日本平

その他、備考
・制服はなし。服装自由。
・入試・面接がある。
・入試の内容は 4 教科と作文。
・障がい者や外国の方も入学 OK。

日程表

学校の流れ
AM 8:00 → 16:00 School
途中休憩
AM 16:00 → 22:00 部活・夢プロ
AM 8:00 → 22:00 (休日) 部活・夢プロ

【B班】「Free dom school」

free dom school

社会に出た時に役に立つ

特徴

① 不自由のない学校生活
・ユニバーサルデザインを取り入れる
・キャリアケース (荷物軽減)
・アレルギーを考えたランチ
・オンライン授業

② 人種と世代の隔りなく関わること
・英語の勉強に力を入れる
・AIとの交流
・ZOOMで海外の人と
・縦割り、横割りの交流
・地域の人との交流

③ 自分で考える力を後に行動する
・イベント作り
・ディスカッション (文化祭)
・質疑応答を積極的に!
・イベントをたくさん行う!
・地域の課題を自分で考える (世界)

④ 生徒主体の学校
・生徒総会で校則変更
・委員会の設立
・意見箱
・制服の自由 (最低限の規則)
・グループディスカッションを増やす

⑤ 経験をつめる
・図書館の本を読む
・校内に美術館
・職業体験
・他校との開き
・リーダーを体験できる場を増やす

自由

未来を 切拓く

社会に出たときに 役立てる

自由では好き勝手に なるでもいいということではなく主体的に改善していくことだという解釈のもとつくりました。

【C班】「未来学校 ~Connect To The Future~」

上手にコミュニケーションがとれる

日本人は他人の意見に流されやすい
 ↳例えば...ディベートを行う
 ↳相手の意見を理解し、自分の意見も伝えられるようになる
 ↳お互いの意見が合わさってより良い意見が生まれる
 ↳自分に自信が持てる

夢へのきかけを見つける

日本の中学生は夢を持っている人の数が少ない。
 ↳例えば、体験学習など社会について教えてもらう
 ↳将来について考えやすくなる
 ↳とっておかず何か挑戦する
 ↳より良い自分を選べる

学習したことを応用する

学校で学んだことを実践する場が少ない。
 ↳授業とは別に学んだことを活かす場を設ける。
 ↳知識が定着する。
 ↳生活で活用できる。
 ↳学習が楽しくなる。

理解を深める

日本人は分からないことや疑問に思うことを放置する。
 ↳クラスの人数を減らす。
 ↳質問やアドバイスが積極的にしやすくなる。
 ↳学習を通してクラスメイトと仲良くなる。

未来学校

~Connect To The Future~

コロナ禍やAIの登場の影響
 ↳将来が不安な人も

そのような人の不安を取り除きたい!

そのために....

まとめ

コミュニケーション 夢

学習の応用 深い理解

↓

4つの目標

将来へ

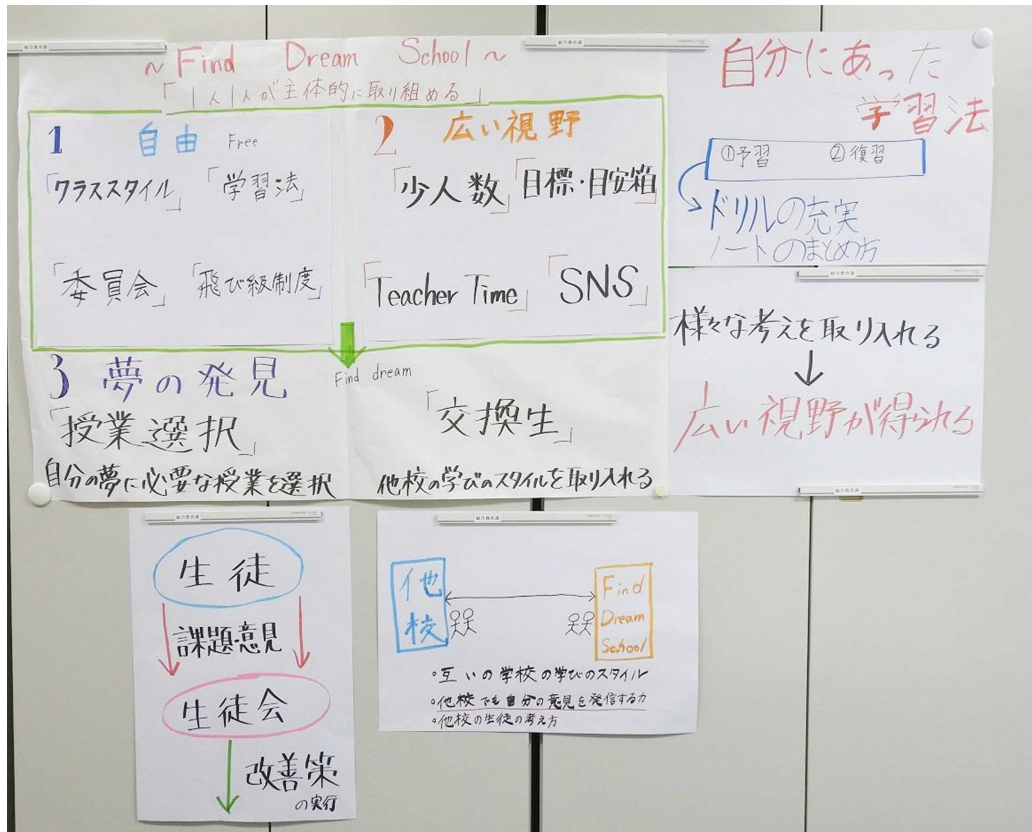
【D班】「Free School」

Free school

先ハイ 後ハイ	行動の自由	グローバル低	一部選択式授業
学年をこえて交流	リラックス	国際交流	一つのことを極められる
イベント 食堂等	授業集中	文化効果 新たな視点	将来・夢 高校入試
	メリハリ	身近	

自分で考えて行動できる人材を育てる学校

【E班】「Find Dream School」



11 受講者の振り返り

1 振り返りレポート

全ての授業終了後、前期と後期の授業を振り返り、受講者に「振り返りレポート」を記入してもらった。

(1) 講師の講義について

多くの受講者が、講師の講義を通して、

- ・明確な目標を立てて、日々コツコツと努力し、夢に向かってひたすら進んでいきたい。
 - ・どのような職業に就くとしても、これからは人見知りせずに、色々な人と話す機会を積極的に作っていきたい。
- など、受講者が自分の夢や将来により前向きに取り組む姿勢に変化したことが伺える。

(2) 仲間との共同作業・共同生活について

前期における仲間とのオンラインでの意見交換や後期における対面の共同作業・共同生活に関する記述が多かった。

- ・前期でも、講義やグループでの意見交換で自分の視野が広がっていたように感じていたが、後期のグループワークを対面で行ってみると、人に自分の意見を分かりやすく伝えることの難しさや大切さを学ぶことができた。
- ・相手の気持ちを考えるとともに、自分の言動を客観視し、より良い人間性を作っていきたい。また、色々な活動をしていく実行力も高めていきたい。

など、前期にオンラインで交流した同年代の仲間と後期では一緒に生活し、協力して課題に取り組む中で、受講者同士が刺激を受け、前期と後期の計5日間という短い期間で、内面的に大きく成長したことが伺える。

2 振り返り（発表）

「振り返りレポート」の記入後、受講者全員に、授業全体の感想や今後の抱負等を発表してもらった。

全てのプログラムを終え、大きく成長した受講者たちは、全員が堂々とした態度で発表を行った。

受講者からは、「自分の意見を伝えることの大切さを学んだ」や「授業で得た協調性や積極性をこれからの生活に生かしていきたい」というコメントが多かった。



12 前期受講者アンケート調査結果

前期終了後、授業全般について、受講者に対しアンケート調査を実施した。主な設問の回答は以下のとおり。

1 「未来を切り拓く Dream 授業（前期）」に参加して良かったですか。 （該当するもの一つ）

とても良かった	22	73.3%	} 93.3%
良かった	6	20.0%	
普通	1	3.3%	
あまり良くなかった	1	3.3%	
良くなかった	0	0.0%	

■ 「とても良かった」「良かった」理由（主なもの）

仲間ができた	・他校の生徒と交流することができた。
	・オンラインでも楽しくコミュニケーションをとれたことがとてもうれしかった。
新しい知識や考え方を得た	・様々な分野の専門家の方々から話を聞くことができ、考え方の視野が広がった。
	・自分の将来の夢を叶えるために勉強以外に必要なことを学べた。
	・今までは全く知らなかった努力の仕方や社会人のあり方などを知ったり気が付いたりすることができた。
	・それぞれの先生が教えてくれたことに、共通点が見付かった。自分を見つめ直すこともでき、とても充実していた。
自分の成長	・「自分のことを伝える」ということが苦手だったが、少し伝えられるようになった。
	・志を高く持っている仲間に出会え、とても刺激になり、目標に向かう意識を高めることができた。

自分の夢や将来について	・自分の「夢」にしっかりと向き合い、生きていくきっかけを得ることができた。
	・社会で活躍している方々の話をたくさん聞け、自分も将来こんな大人になりたい、この仕事もいいなと将来について夢がたくさん持てた。
	・自分の夢を実現させるヒントを見付けることができた。
	・生きていく上で、どのようなことを大切にすべきかを学べ、自分の将来が楽しみになった。

■ 「普通」「あまり良くなかった」理由（主なもの）

オンライン講義について	・オンラインではなく、実際に行って体験したり友達を作ったりすることも楽しみにしていたので、少し残念だった。
	・集中して取り組むためにも、1日に受ける講義やオリエンテーションは2つぐらいがよかった。
講義内容について	・体を動かしたり体験してみる講義をもっとやってみたかった。

2 オンラインによる講義（前期）について、授業の日程は長かったですか。短かったですか。（該当するもの一つ）

長かった	4	13.3%
ちょうど良かった	21	70.0%
短かった	5	16.7%

何日間の授業が良かったですか。（該当するもの一つ）

（上の設問で「長かった」「短かった」と答えた9名が回答）

1日	1	11.1%
2日	3	33.3%
4日	2	22.2%
5日	3	33.3%
6日以上	0	0.0%
その他	0	0.0%

13 後期受講者アンケート調査結果

後期終了後、授業全般について、受講者に対しアンケート調査を実施した。主な設問の回答は以下のとおり。

1 「未来を切り拓く Dream 授業（後期）」に参加して良かったですか。 （該当するもの一つ）

とても良かった	20	76.9%	} 100%
良かった	6	23.1%	
普通	0	0.0%	
あまり良くなかった	0	0.0%	
良くなかった	0	0.0%	

■ 「とても良かった」「良かった」理由（主なもの）

仲間ができた	<ul style="list-style-type: none"> ・前期は他の班との交流がほとんど無かったが、後期は宿泊班など、多くの人との交流があったことで仲間がたくさんできた。
新しい知識や考え方を得た	<ul style="list-style-type: none"> ・普段は会えないはずの仲間、講師の方と出会えたり、異なる考え方の人とも出会えたりして世界が広がった。
	<ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッションを通して、仲間との話合いの仕方、司会の方法、相手との意見の妥協点の見付け方など、豊かな経験になった。
自分の成長	<ul style="list-style-type: none"> ・以前は人前で話すことが苦手だったが、しっかりと対面で授業を受けることで、話すことができるようになった。
	<ul style="list-style-type: none"> ・受講する前よりも自分を知り、自信が出て、新たな自分を見付けることができた。
自分の夢や将来について	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な分野の方の意見や価値観を聞くことで、自分の将来の夢が具体的になり、夢に対しての目標、課題が見えてきた。
前期（オンライン）との違いについて	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインとは違い、実際に会ってプレゼンをするために、自分たちで考えて作るということをする中で、たくさんものに触れて学ぶことができた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインでは意見が出にくく、しゃべりにくい感じがあったが、実際に会うことで、互いの意見を出し合って、認め合って、疑問を問うということを積極的にできた。

2 授業（後期）の日程は長かったですか。短かったですか。

（該当するもの一つ）

長かった	0	0.0%
ちょうど良かった	13	50.0%
短かった	13	50.0%

何日間の授業が良かったですか。（該当するもの一つ）

（上の設問で「長かった」「短かった」と答えた13名が回答）

1日	0	0.0%
2泊3日	5	38.5%
3泊4日	3	23.1%
4泊5日	3	23.1%
1週間以上	2	15.4%
その他	0	0.0%

3 この授業で知り合った仲間とこれから連絡を取り合ったり、会ったりする機会があったら良いと思いますか。（該当するもの一つ）

そういった機会を希望する	26	100.0%
そういった機会を希望しない	0	0.0%

14 受講者の発表を観覧した保護者等の感想

各グループで考えた「理想の学校」の発表を受講者の保護者等に観覧していただき、当日は33名の方が観覧した。

受講者の発表を聞いた保護者等の感想は次のとおりである。

1 発表の方法について

・それぞれのグループが独自のレイアウトや書き方で資料作成していた。
・発表者については、自分の言葉ではっきりと意見を言っていて、とても聞きやすかった。
・グループ発表では工夫がたくさんされていて、興味深く聞くことができた。
・全ての子どもが少しずつ発表できていて良かった。
・発表しているときの姿勢が良かったと思う。
・ホワイトボードには、必要最低限の内容を書くことで、より良い発表になると感じた。
・ポスターセッションの書き方が工夫されていて良かった。
・正々堂々と発表できていて偉いと思った。
・分かりやすく発表できていて良かった。

2 発表の内容について

・子どもたちが自分や周りを見つめ直す、また、視野が広がった機会となったことが伝わってきた内容だった。
・子どもたちが積極的に新しいことを発見して発言する様子がとても私たち大人にも良い刺激になった。
・自分で考えて行動し、様々な視点で見ることなどは、子ども視点のみではなく大人としても非常に大切な視点であり、とても素晴らしかった。
・自由については、責任が伴うということを理解した上で言っているのが分かり、とても関心した。
・グローバル化についてもSNSが普通な環境となり、小さい頃から意識できていることにとても驚いたが、どんどん世界とつながってほしいと思う。
・自分たちで理想の学校を考えて、面白そうな学校で、将来実現できたらいいなと感じた。
・Dream授業を通して学んだことが多かったことがよく分かった。
・テーマの影響があると思うが、「Free」、「Dream」、「未来」といった前向きなタイトルが目についた。
・2日間という短い期間で、初めて対面する仲間と意見をまとめ上げるのは難しかったかもしれないが、よくまとまったと思う。
・どの班の発表もとても良い発想で良かった。
・これからの時代を担うこの子たち。この授業を糧に頑張ってもらいたいと思った。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・身近な「学校」というテーマで良いと思う。・実現可能か否かということではなく、こうなったらいいなと考えることは夢があり、他分野にも通ずるチャレンジすることにつながると思う。 |
| <ul style="list-style-type: none">・日々の学校の課題を見付け、解決するための具体例があり、とても良い内容だと思った。 |
| <ul style="list-style-type: none">・とても難しいテーマだが、短い時間でどのグループもしっかりした内容でよくまとめたと思う。・実際に自分で考えて行動できる人材を育てる学校があったら、自分の子どもを通わせたいと思った。 |

15 ユースリーダー

ユースリーダーは、授業の運営の一翼を担うボランティアとして、過去の「未来を切り拓く Dream 授業」及び「日本の次世代リーダー養成塾」の参加者に協力を呼び掛け、最終的に6名の高校生と1名の大学生に協力していただいた。

ユースリーダーには、授業の準備、記録、撮影等の事務的な作業だけでなく、受講者に対する助言、指導など、様々な面で協力してもらい、ユースリーダーの力なくして、授業を円滑に進めることは不可能だった。ユースリーダーの活躍に感謝するとともに、敬意を表したい。

ユースリーダー自身も、受講者とのディスカッション等を通じて成長していく姿が伺えた。ユースリーダーには、この経験を生かし、自らの夢に向かって努力を続け、社会に大きく羽ばたいていくことを願っている。

なお、ユースリーダーは、後期のみ協力をいただいた。

1 受講者のユースリーダーに対する感想

受講者と年齢の近いユースリーダーが身近な存在で相談しやすかったことが伺える。

■ 受講者のユースリーダーに対する感想（主なもの）

- | |
|--|
| ・ユースリーダーの方々がみんなとても優しく、面白かった。 |
| ・グループディスカッションのときに、ユースリーダーに自分の長所を教えてもらい、うれしかった。 |
| ・自分たちの発表がより良くなるように様々なアドバイスをくれた。 |



16 同窓会の開催

1 目的

平成30年度（第1期）及び令和元年度（第2期）のDream授業参加者を対象として、現在の夢や目標、生活の様子などについて情報交換する場を設けることで、県内各地で努力し続ける仲間の姿から刺激を受け、自らの能力を更に伸ばすための事後研修とするため、今年度初めて開催した。

2 日程

令和3年12月19日（日） 午前10時から12時まで

3 会場

静岡県庁

4 参加者

27名（平成30年度参加者13名、令和元年度参加者14名）

5 内容

- ・近況報告（参加者全員によるリレートーク）
- ・グループワーク テーマ「夢を叶えるために必要なこと」
- ・発表及び3期生へのビデオレター作成



6 参加者の感想

- ・同世代の人たちと何を頑張っているのか、夢を叶えるためにどうすればいいかについて話すことができ、とても刺激を受けた。これからの自分のために頑張ろうと思う。
- ・どの人も輝いていて、自信に満ちていると感じた。自分もこのままではいけないと思うので、もし次があれば自信を持って参加できるようになりたい。



Shizuoka Prefecture

未来を切り拓く Dream 授業 報告書

編集・発行 静岡県スポーツ・文化観光部総合教育局総合教育課

〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号

電話 054-221-3304

FAX 054-221-2905